

しちがはま

議会だより

No. 105

平成22年7月15日
宮城県七ヶ浜町議会



うまくおよげるよ
(アクアゆめクラブ スイミーキッズ)

特集 ナイター議会はどくなる 2

平成22年度
補正予算 学校耐震補強にG Oサイン 4

公共施設の省エネ対策など 6人の議員
が一般質問 6

ナイター議会は どうなる？

特集

議会報告会も視野に！

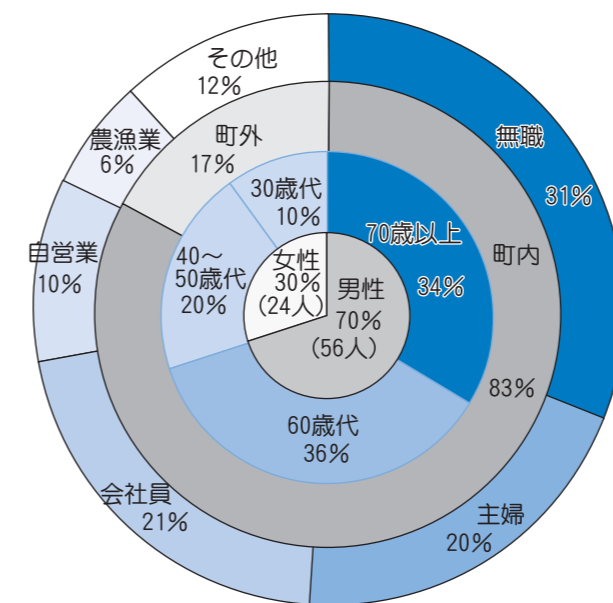
6月定例会は6月9日、10日の2日間の会期で開催しました。今定例会は「非核・平和の町宣言」や22年度補正予算、条例など14件の議案を審議し、いずれも原案のとおり可決しました。また一般質問には6人が活発な議論を展開しました。



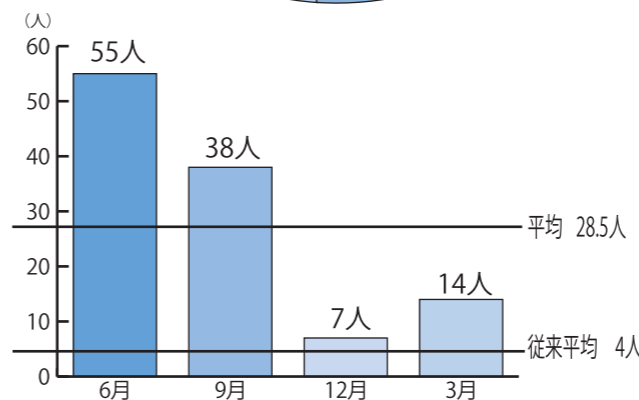
6月定例会の傍聴風景

議会では昨年6月議会から本年3月議会までの一年間を試行期間として夜間議会を開催してきました。その目的は「開かれた議会」とするための手段として実施してきたものです。今後は夜間議会継続の有無を検討するとともに、議員が議場から飛び出し「議会報告会」として町民との対話を重視した議会の活性化に取り組むことの検討も始めました。今回の特集は夜間議会の結果と、傍聴者のアンケートを中心にお知らせします。

夜間議会の結果



① 傍聴者の構成



② 傍聴人数の推移

ひと口メモ

議会報告会
議員全員がいくつかのグループとなり、地区に向いて町民との間で議案の内容または特定の案件について、説明をしながら意見を交換する会合。

来場者アンケートから
傍聴いただいた114人にアンケートをお願いし、80人から回答をいただきました。主なご意見を原文に忠実にお知らせします。

○よかった理由は

- 一問一答方式で分かりやすかった。
- 仕事帰りに傍聴できてよかった。
- 日中仕事をしている者にとっては議会をじっくり傍聴でき、また町政の理解を深めることができよかった。
- 議会への理解と興味を持たせるひとつの手段として評価できる。
- 広報紙で見ていた議事が生で見られてよかった。
- 議員さんの普段見られない所を見たり聞くことができた。

×よくなかった理由は

- 帰り道が暗いため不安である。また、身障者への配慮がない。
- 今回は傍聴者が多かったが、1回の開催だけでは評価できない。
- 歯切れのよい質問をしてもらいたい。
- 質問の内容が重複し過ぎる。
- 質問内容が不備で質問に敵しさが欲しい。質問内容を検討し、時間を有効に使うべきである。
- 質問は簡潔に分かりやすく話した方がよい。また、質問の仕方が悪く、もっと内容を整理して再質問をすべきである。

自由な意見

- 質問内容を十分に分析し、取り上げるべきか否かの検討が必要と思われる。
- 質問の趣旨があまりはつきりしないものが多く、二度三度と同じやり取りがもつたない。
- なぜ一問一答しない質問者がいたのか。
- 質問、答弁が同じようなことが多く時間が長すぎる。
- 町長の答弁が長い、簡潔に。
- 課長さんたちの答弁も聞きたい。
- 夜間に議会を開くという貴議会と町当局の取り組みに敬意を表します。
- 夜間議会を継続して欲しい。傍聴者にそれなりの反応があるし議員にも真剣度が出てくるのでは。
- 夜間議会を実施する意味が不明である。
- 議員の中で一般質問をしない方が、5・6人いるような気がいたしますが、どうしてなのでしょう。
- 機会があれば全議員の質問を傍聴したい。
- 移動議会を実施されたらと考えます。各地区には独特の問題点があり、これらを吸収し町政に反映させる努力が考えられる。

恒久平和の実現へ

非核・平和の町を宣言



この子供たちの将来は

新しい世紀が訪れ、世の中がどんなに進歩しよう、ひとが地球に生きるひとつの生命であることに変わりはない。
地球上のあらゆる生命とともに、我々人類が守らねばならないもの、それは、地球上の恒久平和である。
いまなお繰り返される戦争と地球上に存在する多くの核兵器の廃絶を、私たちは願ってやまない。いつの時代も未来への扉を開いてきたのは、そこに生きる人々の知恵や夢、そして情熱だった。私たちのかけがえのない海、緑豊かな美しいふるさとを次代の子どもたちに引き継ぐために。
七ヶ浜町は、全町民が世界中の人々とともに未来への扉を開くことを願い、永遠の「非核・平和の町」であることをここに宣言する。

宣言文

被爆国の一つの町である七ヶ浜町は、核兵器の廃絶と恒久平和の実現を求め、町民の総意として宣言するものです。

予補正

平成22年度一般会計補正予算は歳入歳出それぞれ3569万円を追加して、52億8069万円としました。補正の主なものは、松ヶ浜小学校・七ヶ浜中学校の耐震改修実施設計委託料等と緊急雇用創出事業委託料などで、反対なく原案のとおり可決しました。
また、平成21年度一般会計補正予算（専決処分）も承認しました。

おもな内容

平成22年度 一般会計	補正額
■歳入 県支出金（緊急雇用創出事業補助金等） 繰越金	1038万円 2531万円
■歳出 馬放島観光環境整備事業委託料 公園等樹木せん定及び植栽事業委託料 町道等障害物伐倒事業委託料 AED装備による漁船乗組員救急救命対策補助金へ追加	902万円 34万円
各小学校英語教育改善の開発事業費 松ヶ浜小学校耐震改修工事実施設計委託料等 七ヶ浜中学校耐震改修工事実施設計委託料等	102万円 1066万円 1465万円

問 改修工事はどのような工法で行うのか。

答 教育総務課長 現在の建物に筋交いを入れたり、コンクリート壁を厚くする補強工事で小学校とも同じ工法で実施する。

学校耐震補強にGOサイン

松小・七中の改修工事予定決まる

質疑

問 改修工事の今後の予定は。

答 年度内に設計を完了して、本工事は次年度からと考えている。

県補助金で環境美化を

問 馬放島の観光環境整備はどのように行うのか。

平成21年度一般会計（専決処分）	補正額
■歳入 地方交付税（国の交付金） 県支出金（養殖施設等緊急対策事業補助金等）	108万円 50万円
■歳出 チリ地震津波による海苔養殖施設被害撤去処分事業補助	158万円

答 建設課長 君ヶ岡公園のテングス病高木部、縦断線の下田堤沿い、町道横断線にはみ出して障害になっている部分、小田一小友線東宮浜「よっちゃん食品」前のケヤキのせん定。汐見台4丁目と県道の間とマロニエ線を予定している。

問 町道等障害物伐倒の場所は。

答 産業課長 21年度事業で一部刈りを行いきれいになったのでその継続になる。今後の観光開発に活かそうというもので、将来的には町花「はまぎく」を観光船から見える場所に植えたい。島は町有地でないので国県と協議して進めていく。

漁船にもAEDを

問 AED装備補助金の支給先は。

答 産業課長 塩釜汽船で、七ヶ浜町の船籍の2隻が対象になる。



緊急時の対応を

専決処分

●町税条例、都市計画条例、国民健康保険条例を一部改正
地方税法等の一部改正による条文の改正

反対なく承認

●平成21年度一般会計補正予算
チリ地震津波被害による養殖施設の撤去補助

条例改正

●職員の育児休業等に関する条例
育児休業等ができる条件を拡充

●職員勤務時間、休暇等に関する条例
育児、介護を行う職員の勤務環境を整備

反対なく可決

●国民健康保険税条例
国民健康保険法の一部改正による条例改正

賛成14反対1で可決

廃止

●宮城中央地区視聴覚教育協議会の廃止
視聴覚教育活動の目的を達したため

反対なく可決

ポケのボーちゃんとのりり君の素朴なギモン



専決処分（せんけつしよぶん）ってなに？



議会の権限に属する事項について町長が議会に代わって意思決定を行うことだよ。



なぜ行うの？



緊急を要することが発生し、議会を招集する時間的余裕がないとき行うんだ。専決処分すれば議会が議決したのと同じ法律的效果があるんだよ。



議会への対応はどうするの？



町長は次に招集される議会（定例会や臨時議会）で報告し、承認を求めらるんだ。



議会でも承認されなかったらどうなるの？



不承認となった場合でも、住民の利益や行政の安定性が損なわれることには影響ないんだ。効力そのものには影響ないわけではなく、町長の政治的・道義的責任が問われるんだよ。



千葉志美枝 議員

非核・平和宣言の町に 町長 核のない真の平和をめざす



大町 睦夫 議員

公共施設の省エネ対策は

町長 太陽光パネルは将来設置したい

問 今、環境問題で言われているのが二酸化炭素の削減である。その実現のためには自治体、企業、地域社会から家庭とそれぞれの分野で取り組み方は違うが、町としては公共施設から省エネ対策に取り組み町民の意識高揚に努めるべきと考えるが。

答 町長 私たち一人一人がより一層の環境に配慮した行動をすることが大切であり、豊かな生活を見つめ直し、大人も子どももできることから行動することが必要である。温暖化をすぐ止めることはできないが、温暖化による災害に備える方法や、二酸化炭素を削減することなどの原因をなくす対策が必要である。



既に先進地では (埼玉県)

問 太陽光発電システムを環境教育に生かした取り組みを行う考えは。

答 資源の少ないわが国のエネルギー教育は、将来を担う子どもたちのためにも取り入れるべきであり、将来はぜひ設置したい。

問 庁舎壁面等への緑化対策の考えは。

答 地球温暖化に対する環境負荷低減対策として注目されているが、事業費と年間維持費が高額であるため現段階での導入は難しい。

問 地球温暖化対策に関する地方公共団体実行計画の進み具合は。

答 法律に定められた環境保全活動に取り組みでいく。さらに町民を含めた地球温暖化防止対策の取り組みの実行計画策定を全課対象とした検討委員会として立ち上げて議論、検討し作成する。

問 検討委員会はそのような構成か。

答 全課とも課長以外の職員1人で構成し事務局は環境生活課とする。

問 企業は省エネに対し素晴らしい情報網を持っているが、東北電力などとタイアップして実行計画に反映させるべきと考えるが。

答 東北電力(株)だけでなく、他の企業もある。まず私たち町民がクールビズ、ウォームビズの実践、省エネ製品の選択、さらにはエコにつながる地元産品の購入に取り組むことである。毎年開催している子どもゆめ議会での児童生徒は環境に対し大変敏感であり、質問の半分は「ゴミとかエコの問題である。そのような児童生徒を中心とした環境教育なども有効ではないかと考える。」

問 アメリカのオバマ大統領は2009年4月「核なき世界を目指す」との演説を行い、各国からも核廃絶を求める声が活発化している。日本は世界で唯一の被爆国であり、核兵器がひとたび使用されれば全人類未来世代にまで影響が及びその脅威は計り知れない。一人一人が平和を守る地球市民として、自らが起こす核兵器廃絶への潮流を形にしようとする県内においても「非核宣言自治体」の拡大が進められている。本町においても恒久平和を願う「非核・平和の町七ヶ浜」の宣言を行う考えはないか。

答 町長 オバマ大統領がノーベル平和賞を受賞、核兵器のない世界の平和と安全保障を追求する旨を表明し期待が高まっている。しかしまだまだ世界中には数千発もの核兵器が存在し、目指す目標には遠い現実にある。わが国では広島・長崎で核の惨禍を経験した唯一の国としてこれまで核廃絶を世界に強く呼びかけてきた。本町議会でも昨年9月の定例議会で「非核日本宣言」を求める意見書を採択し国に提出している。町としてもこれを機に七ヶ浜町民の総意として宣言を今定例会に提案した。核のない真の平和を呼びかけていく。

問 全町民の総意として同じ心をもってもらうためにどのように浸透させていくのか。

答 どのようにしたら同じ気持ちになってもらえるか、積極的にPRし周知していく。

問 本町には飲酒運転根絶宣言などの立看板もあるが、非核・平和宣言も町民の目に付きやすい所に設置し周知を図る考えは。

答 今後どういう方向で効果的な効果が得られるかを考えていく。

問 今後の平和教育をどのように推進するの

答 本町が取り組んできたい国際交流ではお互いの国や地域を知り、違いをも認め尊重し合っている。相手を理解し思いやる心が真の平和の基本である。豊かな人材育成が核なき平和へとつながっていくことを確信し事業の積極的推進を図る。



核のない平和な未来を

問 利府町では「私たちの戦中・戦後展」と題し戦争体験を紹介するパネル展が開催されている。本町では学びの場となる環境をどう整えるのか。

答 民族間の対立や戦争で貧困にあえぐ世界の子どものことも知らせていきたい。教育委員会とともに検討していく。



歌川 渡 議員

保護者の負担軽減を 教育長 受益者負担も必要と考える



過大な保護者負担は改めよ

問 学校教育における学校諸経費の内容で本来教育行政が負担しなければならぬものを保護者へ負担を強いているのが多く見受けられる。例えば副教材・部活動諸費・修学旅行諸費等。法律では「当該市町村の負担に属するものとされる経費で政令で定めるものについては、住民に対し、直接・間接であることを問わず、その負担を転嫁してはならない」とある。現下の経済情勢を考えれば、保護者の経済負担の軽減と教育環境の充実を図るべきではないか。

答 教育長 義務教育無償とは、授業料と教科書のみで、他の学用品は対象外。在学中はさまざまな学校諸費があるが、受益者負担の原則から必要と認識している。今年から子ども手当が支給されたが、学校諸費に充てていただければ、教育委員会がありがたいと考えている。

問 町のノリ養殖施設全体の20%以上で、さらに被害額2千万円以上1施設13万円以上となっているが、1施設では対象外になるため、複数を1枠として国に要望している。

答 町のノリ養殖施設全体の20%以上で、さらに被害額2千万円以上1施設13万円以上となっているが、1施設では対象外になるため、複数を1枠として国に要望している。

問 助成対象状況は。

答 町長 ノリ養殖施設で約1億8800万円。水揚げ高で約1億7800万円。

問 2月28日、日本を襲ったチリ地震津波に対する「激甚災害指定」に本町のノリ養殖施設も対象となった。しかし、町内のノリ養殖業者のほとんどの人が、その支援の対象にならないと肩を落としている。本町の基幹産業であるノリ養殖業者の漁業生産の安定に向け、復旧と経済的支援を行うべきではないか、本町の被害状況は。

町長 国・県へ働きかけている

ノリ養殖業者の再建支援は

問 助成対象に外れた場合の独自支援措置実施の考えは。

答 海底から引き揚げた施設・漁具の撤去費用は県・町で全額補助した。

町長 根気強く公募していききたい

問 平成23年度の小規模特養ホーム開所の誘致状況等で、実施事業者の確保は。

答 町長 5回目の公募となるが、応募者がいない。

問 建設に関わる県へ申請等のスケジュールは。

答 8月6日が期限だが、考慮してもらっている。

介護事業者側は経営上、重度で動かない人を選ぶようになる。本当に介護が必要な人が利用できない状況を生んでいる。保険者である自治体の長が国に是正を訴えるべきでは。先ほどの答弁で、県と関係機関と何らかの検討を考えたというが何らかとはどういうものなのか。

答 これは単に介護保険だけの問題ではない。社会保障全体の枠組みの中で考えていかねばならない。国へ届くように宮城黒川町村会などで問題を提供したい。

こんな質問もしました 地域包括支援センター の相談事業の充実を



被害補助を期待

問 回数募集で、応募に至らなかった主な要因は。

答 採算性を危惧しているのではないか。

問 町内特養施設で昨年1年間の入所者は何人か。また、待機者は何人か。

答 入所者2人。待機者67人。



遠藤 久和 議員

制度の早急な是正を求める

町長 関係機関へ問題提供したい

問 介護保険制度は市町村単位だがサービスや利用者負担などの地域格差が生じてきている。保険者である自治体の長として今の制度上の単位は適正規模と考えるか。また、新予防給付を中心に導入された定額制の影響は。



答 町長 地域により差異が生まれることは認識している。平成16年度に二市三町で介護保険広域化の研究を立ち上げたが認定審査業務は広域的に実施しているが自治体間の保険財政の格差や高齢化比率の違いにより検討課題にとどまった。当時、私は推進したいと考えていたので残念な思いがある。費用や効率面から広域化のほうを得策と考える。しかし現在は6年前より広域化はさらに難しい状況と考える。月単位の定額制が導入されたことで支給限度額内でも介護報酬の範囲でしかサービスが利用できないという二重構造が生じ、制度上の矛盾を感じている。利用者に不具合が生じた場合は地域包括支援センターで相談に応じ対

処していききたい。この制度は国が定めるもので制度開始から10年が経過し、改善すべきところがある。今後は県と関係機関と連携し利用者が適切なサービスを受けられるよう何らかの形で働きかけをしていきたい。

問 介護保険制度は共通するリスクを分散する制度である。小さな地域単位では成り立ちにくい。後期高齢者医療制度のように最低限県単位の規模が必要ではないか。答弁では広域化の検討は現在のほうが6年前より難しいというがその理由は。

問 この制度が事業者、利用者にとどのような影響をもたらしているか。一例をあげれば、ケアマネが日中独居の人に今までのケアプランを立てて事業者がヘルパーを派遣する。しかし監査で不適正となれば返還をせまられる。事業者はヘルパーに報酬を支払った後なので損失を出す。結局ケアマネは大幅に自主規制せざる得なくなる。ケアプランにプレッシャーを与え利用者を減らして



岡崎 正憲 議員

一時帰国児童に仮入学の機会を 教育長 柔軟性をもって検討したい



鈴木 勝美 議員

通学路の安全確保は

町長 関係機関に要望を行っていく

問 松ヶ浜小学校児童が毎日登下校に菖蒲田浜字石畑付近横断歩道を児童総数367人中、汐見台南地区より180人が横断する。また、一時的ではあるが5分間にほぼ50台の通勤車両が通過する道路を横断している。石畑付近の歩道が狭くなっているため、横断を待つ児童が車道にあふれる状況にある。PTA、交通安全指導員、個人ボランティア等の協力はあるがいつ事故が発生してもおかしくない現状を考えると、未然に防ぐ対策として歩道の拡幅と押ボタン式信号機の設置が望ましいが考えは。

答 町長 菖蒲田浜字石畑付近横断歩道は、朝の通勤帯の交通量が多いことから教職員、PTA、交通安全指導員の協力を得て、児童生徒の安全に細心の注意をはらっている。押ボタン式信号機の設置には、交通量や交差点の形状等の調査により設置されるが、塩釜警察署に問い合わせたところ今の財政状況から5・6年先になると回答を得ている。歩道が狭くなっている部分は、県の道路管理者である仙台土木事務所に要望していく。

問 現在、縁石のある歩道では問題ないが白線のみの歩道になると開放的な気分になるのか道路いっぱいになり通行危険回避のために通学路に縁石設置の歩道の確保が必要なのでは。

答 歩行者の安全確保は大事である。縁石を設置した場合道路の幅が現状より1.2m狭くなる。両側に建物があり道路の拡幅は非常に困難であり地域住民の理解を得ることも難しい。児童の安全確保を図るために片側の路側帯拡幅や、徐行運転の励行、路面表示方法、スクールゾーンの指定などさまざまな角度から検討していく。



児童の横断の様子

問 企業などの国際化によって本町でも相当数の家庭が海外で生活している状況にある。その家庭の児童が日本とは時期がずれる夏休みなどを利用して一時帰国している。体験学習や将来の帰国を視野において小・中学校に仮入学をさせたいとの希望もあるが、本町には受け入れ態勢がないため仙台市に仮入学させるを得ない。子ども同士の交流、文化の交流を目的とし受け入れる考えはないか。

答 教育長 本年4月に町内で1件の希望があった。学校内での事故等の安全管理、担任教師の指導管理上の懸念からご理解をいただいた上でお断りをした。今後その時の条件を考えて柔軟性をもってその都度検討したい。

問 本町はプリマス市との姉妹都市関係に象徴されるように国際交流を推進する姿勢が強い。積極的な対応はできないか。

答 本町の国際交流は町が行う事業として全国的にも類を見ないものと理解している。児童のためには、お互いの文化の交流で刺激し合うというメリットもある。前向きに考えたい。

問 仮入学の発生時期、件数など予測できないうえに、教員の負担にもなることではあるが、受け入れる場合の対応姿勢はどうか。

答 安心安全を優先に判断し学校現場の意見を尊重して判断したい。早速校長会等でこの事例を報告し、教育委員会を含めて協議したい。

問 臨機応変に対応するとなると時間の経過とともにあいまいになる恐れがある。本町でもこのような対応ができるということを発信する考えはないか。

答 確かに児童にとってそれを前向きに考えて、校長会等で話題にしながら今後への対応を協議したい。その結果で発信するかどうかは今後の課題とさせていただきます。



松小の英語授業

委員会レポート

これも議会の仕事です

総務

避難路・避難場所は安全か

調査が終了する「公共施設等における省エネ対策」の取り扱いを協議した結果、委員長が代表して一般質問することになりました。

新たな調査事項である「災害時の避難路と避難場所の安全確保について」2月に発生したチリ中部沿岸地震に伴った津波への対応など、防災会との反省会の内容と町内全域の津波避難誘導標識の設置個所など担当課の説明を受けました。町と自主防災会との連絡体制の確保等があげられ、今後の各地域での防災訓練の中に町との情報伝達を取り入れるといった内容でした。さらには警報が発令されても町内数力所



町内避難路・避難場所の確認

で、再三の呼びかけにも避難行動をとらない町民がいたといった問題などもあったようです。今後の取り組みとして、説明を受けた避難誘導標識設置図を基に、安全が確保されているか、継続して現地調査していきま

教育民生

調査を継続

4月20日に委員会を開催、教育環境と学力の現状について20・21年度の全国学力・学習状況調査テスト(全国学力テスト)結果や、2月に調査した秋田市、横手市の研修報告書を基にこれまでの調査を踏まえた各委員の意見を聴取しました。また、当日は22年度全国学力テストが実施されており調査結果を待つて検討することとし、継続調査することにしました。

さらに、町教育委員との懇談会や教育委員会の傍聴をすべきとの意見があり、次回は会議を傍聴することにしました。

議会運営

議会活性化への取り組み

議会の活性化を図るためこれまで一般質問の一回一答方式など、さまざまな取り組みで改革を行ってきました。この一年間は試行期間でしたが、日中は仕事や用事で議会の傍聴が困難な町民の方々にも可能なように、夜間議会を開催し、第1回目は近隣市町で初の試みという事もあり、町内外から注目され多くの傍聴者が訪れました。回を重ねるたびにその数は減少し、顔ぶれとも日中の開催と大差ない状況でした。来場者のアンケートや議員全員の調査を踏まえ、夜間議会の今後については現在委員会で慎重に協議検討中です。これから



蔵王町の議会報告会を視察

産業建設

利府町を訪問 連携拡大を

利府町の観光施策の誘致策、近隣市町との連携策を研修してきました。利府町は2人の専門家へサポートを依頼し観光事業者、農林漁業者、商工業者、一般住民の参加で目的別に4つの編成の研

究会を立ち上げました。その後、市町村振興総合補助金2分の1を受け研究会から提案されたモデル事業を実施しています。内容は四季を通じた梨のイベント、体験漁業や加瀬沼の四季、JR東日本駅長のおすすめの小さな旅などのイベントは、それぞれ好評で繰り返し訪れる観光客の増加が見られるようです。



海岸線をドライブコースに

観光協会は自立した活動展開を行っておりボランティアガイド15人も活性化に貢献しています。利府町内にはJRの駅4力所のインターチェンジなどを有し交通の便にも恵まれています。研究会を計画する際に旅行代理店に勤務していた住民がいたことや当初の専門家のアドバイスなどが有効に機能したようです。近隣市町との連携では本町との日帰りドライブコースを設定し「歴史と絶景と旬の味覚を堪能する旅」の実施など着実に進めています。今後のさらなる連携を図るためには本町の売りとなるものの拡大や年間をとおして提案できるものを作っていくかなければと考えます。引き続き塩釜市、松島町を調査予定です。

議会広報

内容・技術ともに 第1級の評価

地方議会人5月号でしちがはま議会だよりが、広報コンサルタントのクリニックを受けました。編集の基本である「住民の知る権利」「議会の知らせる義務」を踏まえ、紙面のレイアウト・印刷・写真など技術面も含めて評価されます。

しちがはま議会だよりは全国コンクールで3年連続の受賞となりました。しかし、一度は専門の先生のクリニックを受けたとと考えていましたが、その機会を得ることができました。

評価は「内容・技術とも第1級の議会広報」で基本姿勢・技術両面で優れた出来栄であるとの

講評をいただきました。さらに、編集マニュアルを持っていることが大きな財産であると評価されました。

最近町民の皆さんから「議会だよりを見て…」という問い合わせが議会事務局に寄せられます。これはしっかり読んでいただいていると大きな励みと自信にもなっています。委員会もさらに改善を加えながら親しまれ読まれる議会だよりの発行に努めていきます。



議会だより100号までの記念保存版ができました。町民交流室、図書センター、歴史資料館に置いてあります。ご自由にご覧ください。

地方議会人
全国市議会議長会・町村議会議長会が共同で毎月発行する広報紙で、国政から地方行政の情勢が掲載され、多くの議員が購読して活動の参考になっている。



請願に

…だから賛成します …なので反対します



討論

賛成 歌川 渡

所得税法第56条による白色申告は中小業者の家族従事は必要経費と認められず、青色申告は家族従事者の給料は条件義務があるものの経費とすることができ。しかし、同じ労働に青色と白色の差を付けることは税法の矛盾であり、実態に合ったものへの改正が急務であり本請願に賛成する。

反対 岡崎正憲

3月定例会で総務常任委員会に付託された「中小企業の自家労賃を必要経費として認めることを求める意見書の採択を求める請願」は、委員会で請願者(塩釜民主商工会婦人部)からの趣旨説明などが行われ、本会議で委員長の報告後採決を行いました。その結果「不採択」と決しました。

請願者の説明によれば目的は「第56条の廃止を求める」ことで、請願タイトルを「自家労賃を必要経費とする」ことと内容を故意に外し、青色申告を否定している。また青色申告は帳簿処理などが複雑で中小規模経営には不向きと説明されたが、今は難しいものではない。本町は「青色申告と納税完納の町宣言」を採択し推進していることから本請願に反対する。

議決結果

賛成1 反対14
反対多数で不採択



定例会での質問がその後どうなったのか。今回は歴史と町花に関する一般質問を追跡しました。

質問のゆくえを

町の歴史を残せ

七ヶ浜町誌を発行(昭和42年)してから36年になるが、その後の記録がない。改訂版をつくる考えはないか。
<平成16年6月>

答弁

町長 町制施行50周年に発行したい

町誌発行後、町は大きく変わっている。来年度から編さんの準備をしたい。

そして

済

平成18年度から3年間でまとめ、増補版が完成。
平成20年10月31日発行になりました。



町花はまぎくの普及を

町木くろまつとともに町を代表する花であるはまぎくを知らない町民が多い。公共施設に植えてアピールしたらどうか。
<平成18年12月>

答弁

町長 関係団体と協議していきたい

はまぎくは昭和53年に町花として指定した。かつては町内に多く見られたが、姿を消していった。今後、地区や活動団体と協議していきたい。

そして

将来は馬放島に植える予定です

先日、町民の方から新聞の読者ページに、はまぎくをもっと植えて町花にふさわしい環境整備を望む声が掲載されました。



ご意見板

誰でも使える制度で
利用できたらいいね

前略。しちがはま議会議会だより(No.104)P9奨学資金の貸付枠拡大。これ自体は、時勢に合った適切な対応だと思えます。実は、私の子どもが今年4月の大学進学に当たり、七ヶ浜の奨学資金が無利息ということと申し込みしたいと相談しました。手続きとして保証人(町内在住が条件)が必要と

いうことで、町内に親戚のいない私(県外、妻(県内)は、断念せざるを得ませんでした。この保証人の条件をはずすことが、町外から転入した人が多い七ヶ浜の奨学資金利用拡大になるはず。ぜひ検討して下さい。

(汐見台 黒沢さんからの投稿)



町民の声

岩本真奈美さん
(境山)



町の育成事業に感謝

グループ セブン
「Groove 7」をご存じでしょうか？
ジャンベ、マリimba他打楽器を演奏するグループです。私の娘2人は、その一員です。結成時から今年で10年目に突入です。こんなに長く続けられるとは驚きです。魅力があるからでしょうね。自分に自信が持てることに出会え、心から良かったと思います。このような場所を与えてもらい町に感謝しています。ステージ演奏を鑑賞いただきGroove 7団員希望者がいることを、この育成事業の存続を願います。



野外コンサート

町民の皆さんからお寄せいただいたご意見、ご要望などを紹介いたします。どしどしお寄せ下さい。お待ちしております。

「小さなオランダ」

わが町の観光スポットのひとつである君ヶ岡公園は桜の季節には多くの人で賑わいます。それが葉桜になる頃今度は私たちの番よというように一斉に咲きほこるのがチューリップ。チューリップといえば世界一の生産高を誇るオランダ。公園の一角にこうした「小さなオランダ」があったのをご存じでしたか。

♪さいた さいた

チューリップの花が

ならんだ ならんだ

あか しろ きいろ

どの花見てもきれいだな♪

誰もが口ずさんだことのある童謡。平凡な歌詞ですが実はこのとおりなのです。スクツと茎がまっすぐに伸び、並んでいるさまは運動会で整列をしている子どもたちのようです。そしてどの花見てもきれいなのです。どうぞあなたも花が咲いたらご家族や気の合う仲間と足を運んで見てください。煩雑な日常生活にホッとした時間を取り入れるのは大切なことと思います。



色とりどりのチューリップ

議会を監視するのはみなさんです。

一次の定例会は、9月2日開会予定です

面倒な手続はございません。どなたでも気軽に傍聴することができます。ぜひお越しください

詳しくは議会事務局まで TEL 357-7435

または、町ホームページ「町民便利帳」をご覧ください。 <http://www.shichigahama.com>

編集後記



●今年のは天候不順で寒暖の差も大きく、体調を崩した人も多かったようです。日頃健康維持のため何か努力していることありませんか。早寝早起きの励行、朝ご飯をしっかり食べる、またウオーキングなど人それぞれ違いますが、

●健康エネルギーを高めるひとつに「朗読」があるそうです。童話や小説、新聞なんでもいいのです。それならば議会だよりのお気に入りのページをたまには声を出して読んでみるのはいかがでしょう。きつとあなたの健康づくりに一助となるはずです。ぜひ試してみてくださいね。

千葉志美枝

議会広報調査特別委員会

- 議長 阿部 慶也
- 委員 長 梅津 榮一
- 副委員長 岡崎 正憲
- 委員 鈴木 初雄
- 委員 糸久 博
- 委員 鈴木 勝美
- 委員 千葉志美枝